

【専門教育関連科目/環境の理解】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
公衆衛生学		必修	1	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
藤井 充	306	mitsuru.fujii	水曜日 12:00~13:00		
授業の目的・概要	国民を個人ではなく、集団としてとらえ、健康を確保増進することが求められている。公衆衛生学では、健康の概念、健康を保持増進するための考え方、地域の各種団体、地域住民の協働による住民の健康確保を理解することを目的とする。反転授業とそれを踏まえた対面授業により、公衆衛生学の基本概念、健康事象の把握、課題解決方法について理解を深める。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input checked="" type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
学習上の助言	日々の健康に関係する出来事について、課題は何か、自分ならどんな解決方法を提示するかを考察するように努めて欲しい。				
教科書	系統看護学講座 公衆衛生 健康支援と社会保障制度②/ 神馬征峰 他/ 医学書院/ 2020				
参考書	特になし				
外部教材					
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	公衆衛生の概念を理解する。		HSU (3)、NS (4) (5)		
②	健康とは何か理解し、保健予防活動について説明できる。		HSU (3)、NS (4) (5)		
③	環境と健康の関連について理解する。		HSU (3)、NS (4) (5)		
④	ライフステージにおける健康問題について理解する。		HSU (3)、NS (4) (5)		
⑤	健康危機管理について理解する。		HSU (3)、NS (4) (5)		
授業計画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	公衆衛生の概念、公衆衛生の歴史について学ぶ。	講義、演習	公衆衛生とは何か、健康の概念を理解すること。	4	
2	公衆衛生の対象、仕組みについて学ぶ。	講義、反転授業	公衆衛生の活動対象、行政の仕組みを理解すること。	4	
3	環境保健、食品保健について学ぶ。	講義、反転授業	身の回りの環境や食品の健康被害について理解すること。	4	
4	公衆衛生における感染症対策について学ぶ。	講義、反転授業	感染症の予防について挙げられるようにしておくこと。	4	
5	地域保健(母子保健、健康づくり)について学ぶ。	講義、反転授業	母子保健、健康づくりについて理解すること。	4	
6	地域保健(がん対策、精神保健対策)について学ぶ。	講義、反転授業	がん対策、精神保健対策について説明できるようにすること。	4	
7	学校保健、職域保健について学ぶ。	講義、反転授業	学校保健、職域保健について説明できるようにすること。	4	
8	健康危機管理、災害保健について学ぶ。	講義、反転授業	健康危機管理として看護職の役割を整理しておくこと。	4	
試	定期試験、達成度評価・評価のポイント参照				

【専門教育関連科目/環境の理解】

		達成度評価						
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
総合力指標	知識・技術力	60	0	0	0	40	100	
	思考・推論・創造する力	35	0	0	0	20	55	
	思考・推論・創造する力	15	0	0	0	0	15	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	20	20		
問題を発見・解決する力	10	0	0	0	0	10		
評価のポイント							フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点						
試験	①	✓	多肢選択形式の筆記試験の正答率で評価					試験採点后、正答率が悪い問題についての解説をメールで配信
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
レポート	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
その他	①	✓	毎回の講義の際に課す自宅課題の提出状況と正答率を評価 講義の出席状況を評価					課題についての説明解説
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
備考								
他担当教員	なし							
教員の実務経験	公衆衛生医師として、厚生労働省、保健所等に40年間勤務							
実践的授業の内容	保健所での経験をもとに、看護職として現場で経験する可能性があることを取り上げ理解を深める。							
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容は、講義の進行度によって前後する可能性がある。</li> <li>・今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢の変化により再度シラバスの変更がありうるので注意すること。</li> </ul>							